

全コース共通

修業年限（期間）	4年	コースの履修対象者	原則として初期研修修了者
履修科目等	<p>共通特論Ⅰ、共通特論Ⅱ、SPを用いた職種横断的臨床課題演習、がん緩和医療演習Ⅰ、がん緩和医療演習Ⅱ、解剖学第二(脳構築学)、病理学第一(幹細胞病理学)、病理学第二(比較病理学)、衛生学(幹細胞生物学)、内科学第一(血液・呼吸器・膠原病・感染症内科学)、内科学第三(消化器内科学)、小児科学、外科学、胸部心臓血管外科学(呼吸器外科学)、脳神経外科学、腎泌尿器科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、放射線科学、産科学婦人科学、臨床検査医学</p>		

各教育コースの概要

◆がん専門医療人に重点を置くコース

コースの名称	腫瘍外科専門医養成コース
養成する専門分野	腫瘍外科学
養成する人材像	大学院4年間で、高度な臨床能力と研究能力を併せ持つ外科医を養成する。膵臓癌をはじめとする難治癌の病態解明を目指す研究で学位を取得するとともに、先進の外科手術手技と先端医療の基礎知識を有するがん専門医を養成する。
期待される成果や効果 (アウトカム)	外科手術手技と研究能力に優れた腫瘍外科医が養成され、がん治療の成績向上に貢献することが期待される。
教育内容の特色等	がんの発生学からがん進展にいたる病理学まで基礎的な知識の集約、基礎研究を経験するとともに、腫瘍外科医としての臨床修練を行う。
修了要件・履修方法	<p>終了要件：単位取得</p> <p>履修方法：講義、セミナー、外科実習</p>

◆地域がん医療に貢献するがん専門医療人に重点を置くコース

コースの名称	地域がん医療貢献型臨床腫瘍学コース
養成する専門分野	がん薬物療法専門医
養成する人材像	がんの分子生物学・診断・治療にわたる基礎知識・技能を習得し、地域基幹病院において均てん化がん医療を実践できる薬物療法専門医を養成する。
期待される成果や効果（アウトカム）	将来所属する当該臨床科において、癌腫に関する病態を多角的に理解し、その上で治療方針を英断的に決定し、特に化学療法の適応を正確に判断し、緩和医療との見極めが客観的にできるようになる。
教育内容の特色等	初期2年間で、がんの発生学からがん進展にいたる病理学まで基礎的な知識の集約・基礎研究を経験する。後期2年間では、臓器別にがん治療専門家との集学的治療を体験する。
修了要件・履修方法	基礎もしくは臨床に関する学位を取得し、将来、がん薬物療法専門医を取得するための基礎的能力を履修する。

コースの名称	地域がん医療貢献型放射線腫瘍学コース
養成する専門分野	放射線治療専門医
養成する人材像	がんの分子生物学・診断・治療にわたる基礎知識・技能を習得し、地域基幹病院においてがんに対する放射線治療を中心とした集学的治療の実践と革新的がん治療を行う放射線治療専門医を養成する。
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	癌腫に関する病態を多角的に理解し、がん治療の全相における放射線治療に精通した放射線治療専門医資格の取得と、がんに対する放射線治療に関する基礎的・臨床的リサーチワークの指導者をめざす。
教育内容の特色等	初期2年間で、がんの発生学からがん進展にいたる病理学までの基礎的な知識の習得および基礎研究を経験する。後期2年間では、標準的放射線治療に加え全身化学療法を含む集学的癌治療を経験する。
修了要件・履修方法	基礎もしくは臨床に関する学位取得をめざし、将来、放射線治療専門医を取得するための基礎的事項を履修する。

◆地域がん医療に貢献するがん専門医療人に重点を置くコース

コースの名称	地域医療貢献型先進的がん治療学コース
養成する専門分野	がん治療認定医
養成する人材像	がんの分子生物学・診断・治療にわたる基礎知識・技能を習得し、標準的集学治療の実践と革新的ながん治療の開発研究を行うがん治療専門医を養成する。
期待される成果や効果 (アウトカム)	癌腫に関する病態を多角的に理解し、がん治療の全相における標準治療に精通したがん治療認定医の取得と、がんに関する基礎的・臨床的リサーチワークの指導者をめざす。
教育内容の特色等	初期2年間で、がんの発生学からがん進展にいたる病理学まで基礎的な知識の集約・基礎研究を経験する。後期2年間では、細胞免疫療法や移植療法などの先進的がん治療を経験する。
修了要件・履修方法	リサーチワークに関する学位の取得をめざし、将来、がん認定医を取得するための基礎的能力を履修する。